

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄県における成人市中肺炎と医療介護関連肺炎の病原微生物および臨床像の比較解析

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2019-04-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Gretchen, Parrot メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/44125">http://hdl.handle.net/20.500.12000/44125</a>

(別紙様式第7号)

## 論文審査結果の要旨

報告番号	課程博 * 第 号	氏名	Gretchen Parrott
論文審査委員	審査日	平成 31年 1月 15日	
	主査教授	松崎 吾朗	印
	副査教授	高橋 健造	印
	副査教授	朱本 存二	印
(論文題目) Etiological analysis and epidemiological comparison among adult CAP and NHCAP patients in Okinawa, Japan. (沖縄県における成人市中肺炎と医療介護関連肺炎の病原微生物および臨床像の比較解析)			
(最終試験結果の要旨)			
1. 研究の背景と目的:			
医療介護関連肺炎 (nursing and healthcare-associated pneumonia, NHCAP) は、日本特有の医療事情を反映した疾患概念であり、成人市中肺炎 (community-acquired pneumonia, CAP) と比較して誤嚥性肺炎が多いなどの特徴を有している。この NHCAP と CAP の病原微生物や臨床像の違いを明らかにすることは肺炎の治療を考えるうえで重要である。そこで、本研究では NHCAP と CAP 患者の病原微生物の検出や予後因子などに関して検討を行った。			
2. 研究結果:			
琉球大学医学部附属病院に入院した肺炎患者 200 人 (NHCAP 患者 103 人、CAP 患者 97 人) に対して、後方視的解析を行った結果、以下の所見を得た。①71%の患者より病原体が同定された。その中では、肺炎球菌、インフルエンザ桿菌、 <i>Moraxella catarrhalis</i> の頻度が高く、その傾向は NHCAP, CAP 患者でほぼ同等であった。病原体が同定されなかった患者に対しては Gram 染色により細菌を同定したが、その結果も NHCAP と CAP で違いは認められなかった。②肺炎の重症度と関連する因子として、男性、慢性心不全、慢性閉塞性肺疾患が挙げられた。③長期入院のリスクファクターとして、CAP 患者では慢性心不全と慢性腎不全、NHCAP 患者ではその他の肺疾患と事前の抗生物質使用が挙げられた。④CAP 患者に比べて、NHCAP 患者は入院期間が長く、30 日死亡率も高かった。⑤CAP 患者の入院時期は冬に高いのに対し、NHCAP 患者の入院は通年性であった。			
3. 研究の意義と学術的水準:			
以上の研究より、CAP 患者と NHCAP 患者の間で、病原微生物に大きな違いは認められなかった。また、病原体を同定できない患者に対しては Gram 染色が有効であった。CAP 患者と NHCAP 患者で病原微生物に大きな違いがないことから、これらの疾患の臨床経過に影響を及ぼす因子として、病原微生物の種類よりも基礎疾患の管理が重要と考えられた。			
以上の結果は、NHCAP 患者の治療方針を決定する上での基礎的情報として臨床的に有用な所見と考えられた。			
以上の結果から、本論文は学位授与に十分値するものと判断した。			

- 備考
- 1 用紙の規格はA4とし縦にして左横書きとすること。
  - 2 要旨は800~1200字以内にまとめること。
  - 3 \*印は記入しないこと。